



指導例：主題名 公正、公平なクラスにするために 内容項目 C-(11)公正、公平、社会正義  
 教材名『席替え』（東京書籍）第1学年

ねらい：「私」が席替えの再提案をする理由について比較・検討することを通して、公正、公平なクラスを実現しようとする態度を育てる。

主な学習活動（○発問 ◎中心発問 ◇補助発問）

指導のポイント

1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。  
 ○アンケート結果から思ったことを発表しよう。  
 S：小学校までは、友達が悪いことをしていたら注意できていた。  
 T：どうして中学生になると、友達が悪いことをしていても、注意できる人の割合が減ってしまうのだろう。  
 S：注意して、友達との仲を悪くさせたくない。友達関係を壊したくない。  
 S：注意をすることで、仲間はずれにされてしまう気がする。

【問題意識をもつ】

・私たちの道徳 162 頁のアンケートと、生徒が回答したアンケート結果を提示し、本時で扱う道徳的価値について問題意識をもたせる。

めあて：公正、公平を実現していくために、あなたはもうどうしたらよいのだろう。

2 教科書の教材文の範読を聞く。  
 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

【めあての設定】

・本時のねらいは、道徳的実践意欲と態度である。そのため、生徒が今後どのように生活していけばよいのかについて実践的な態度を見取ることができるめあてとする。

○この教材文のクラスの問題点は何だろう。  
 S：勝手に席を変えた人がいる。  
 T：これって公平なのでしょう？  
 S：公平じゃない。不公平。  
 ○なぜ「私」は席替えの再提案に迷っているのだろう。  
 S：反感を買ってしまったら、仲間はずれにされたりするから。  
 S：いじめられてしまうから。  
 ◎なぜ「私」は、席替えの再提案をしたのだろう。  
 S：勝手に席を変えたことに納得していない人もいるから。  
 S：この状態だとまたこのような問題が起きてしまうから。  
 S：勇気をふりしぼることができたから。  
 T：どうして勇気をふりしぼれたのでしょうか？  
 S：「私」と同じように納得していない人がいたから。  
 ◇再提案への否定的な意見がある中でも、席替えのやり直しはできますか。  
 S：きまりは守らなくては意味がない。きまりを守るから公平になる。  
 S：納得していない人がいる以上、再提案は絶対にすべきだ。  
 S：自分勝手な状態はよくない。この状態が続くとクラスが荒れてしまう。

【中心発問について】

・発言しやすい雰囲気をつくるために、周りの席の生徒との交流の場を設けることで、全体で交流しやすくする。  
 ・「私」が席替えを再提案した理由について交流したり、比較・検討したりする際には、生徒に「どう思うか」、「付け加えはないか」と問い掛ける。そして、公正、公平について、多面的・多角的に考えられるようにする。

4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。

【補助発問について】

・再提案へ不満を抱く生徒の発言に着目し、みんなの都合がよければいいといった考えは、ごく一部の人の都合でしかないことに気付かせ、それは公正、公平ではないことを理解させる。

○公正、公平って何だろう。  
 S：自分勝手ではなく、みんなのこと考えて行動することである。  
 S：勇気を出して、正しい行動をとることである。  
 5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。  
 ○公正、公平を実現していくために、これからあなたはどのように生活していきたいですか。  
 S：今まで、集団生活で自己中心的な考えで、級友に対して不公平な態度をとってしまうことがあった。これからは、自己中心的な考え方をなくしていきたい。周囲のことを考え、行動していきたい。  
 S：身近なところで公正・公平を実現していくためには、友人関係を先行するのではなく、自らが正しいと思ったことを実践するべきだと思う。

【振り返り】

・本時で学習したことを今後の生活にどのように生かしたいかを考えさせ、よりよい生き方への思いや願いを深められるようにする。

# 道徳科学習指導案

令和元年6月 第1学年 指導者 山添 貴敏

1 主題名 公正、公平なクラスにするために 内容項目C-(11)公正、公平、社会正義

2 教材名 「席替え」(出典:東京書籍)

## 3 主題設定の理由

### (1) ねらいとする道徳的価値について

「正義を重んじ」ということは、正しいと信じることを自ら積極的に実践できるように努めることである。また、「公正さを重んじ」ということは、私心にとらわれて事実をゆがめることを避けるように努めることである。そこで「正義」や「公正」について、道理にかなって正しいことを自ら認識し、それに基づいて適切な行為を主体的に判断し、実践しようとする意欲や態度を育てたい。

### (2) 生徒の実態について

本学級の生徒は、入学してまだ2か月であるが、社会の在り方に目を向け始めている生徒が数名いる。また、現代社会における矛盾や葛藤を見いだしている生徒もいる。しかし、自己中心的な考え方や偏った見方をしてしまい、他者に対して不公平な態度をとる生徒もいる。また、周囲で不公正があっても、多数の意見に同調したり、傍観したりするだけで、制止することができない生徒もいる。そのため、不正な行動があっても、勇気を出して止めることに消極的になってしまう場面が見られる。そこで、そのような自分の弱さと向き合い、同調圧力に流されないで必要に応じて自分の意志を強くもち、正義と公正を実現するために力を合わせて努力しようとする態度を育てたい。

### (3) 教材について

本教材は、席替えの際、一部の生徒がきまりを破って勝手に席を替えてしまったことに憤りを感じた主人公が、迷いを抱えつつも、クラスのために席替えのやり直しを提案する話である。みんながよければ、きまりにこだわらなくてもよいのではないかと行って勝手に席を替わる人に着目し、その考え方は個人の都合に過ぎず、全体のためになっていないことを捉えさせたい。

## 4 指導方針

### ○本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつために

- ・私たちの道徳162頁の正義感に関するアンケートと、生徒が回答したアンケート結果を掲示することで、道徳的な問題を自分事として考えさせる。

### ○教材を通して、道徳的価値の追求を行うために

- ・席替えの再提案の際に、「私」が迷っていることについて触れることで、このクラスでの「私」の立ち位置について理解させるようにする。
- ・「私」が席替えを再提案した理由を交流したり、全体で比較・検討したりすることで、公正、公平について、多面的・多角的に考えられるようにする。
- ・再提案に不満を抱いている生徒の発言について考えさせることで、きまりを無視して都合をよくすることは公平、公正ではないことを理解させる。
- ・公正、公平とは何かについてもう一度考えさせることで、自己中心的な考え方だけでなく、社会をよりよくしようとする気持ちをもたせるようにする。

### ○本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

- ・本時で学習したことを今後の生活にどのように生かしたいかを考えさせることで、よりよい生き方への思いや願いを深められるようにする。

## 5 本時の展開

### (1) ねらい

「私」が席替えの再提案をする理由について比較・検討することを通して、公正、公平なクラスを実現しようとする態度を育てる。

### (2) 準備

教師：ワークシート、アンケート結果（拡大）、資料の場面絵（拡大）

### (3) 展開（○発問 ◎中心発問 ◇補助発問）

学習活動と発問	時間	予想される生徒の反応	指導上の留意点
1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 ○アンケート結果から思ったことを発表しよう。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校高学年までは友達が悪いことをしていたら注意できていた。</li> <li>・中学生になると、友達が悪いことをしていてもやめさせられない。</li> <li>・注意したくてもできない。</li> </ul>	●私たちの道徳 162 頁のアンケートと、生徒が回答したアンケート結果を提示し、人間の心の弱さについて考えさせることで、本時で扱う道徳的価値を、自分事として捉え、問題意識をもたせる。
めあて：公正、公平を実現していくために、あなたはどうしたらよいのだろう。			
2 教科書の教材文の範読を聞く。	7分		
3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。 ○この資料のクラスの問題点は何だろう。  ○今回の席替えに納得している人（☆）とそうではない人（△）に印を付けてみよう。 ○☆印の子たちは何を思っているのだろう。  ○なぜ「私」は席替えの再提案に迷っているのだろう。  ◎なぜ「私」は、席替えの再提案をしたのだろう。 <個人>考えを明確にする ↓ <ペア>交流する ↓ <全体>比較・検討する  ◇再提案への否定的な意見がある中でも、席替えのやり直しはできますか。	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝手に席を変えた人がいる。</li> <li>・ルールを無視している。不公平だ。</li> <li>・☆が7人いる。</li> <li>・△は5人である。</li> <li>・再提案したい気持ちでいると思う。</li> <li>・がまんしよう。</li> <li>・副委員長の味方になりたいけどできない。</li> <li>・再提案すれば、反感を買ってしまうかもしれない。</li> <li>・仲間はずれにされてしまうかもしれない。</li> <li>・ルールに反して、勝手に席を替わるのは不公平だから。</li> <li>・勝手に席を替わった人のせいで不快な思いをした人がいるから。</li> <li>・いやな思いをした人たちの声を代弁する必要があったから。</li> <li>・みんな平等（公平）にするため。</li> <li>・自分の考えに賛同してくれる級友がいたから。</li> <li>・できる。みんなの都合といっても、結局はごく一部の人の都合でしかない。そこに公平はない。</li> <li>・納得していない人がいる以上、再提案は絶対にすべきだ。</li> <li>・このままいけばクラスが荒れてしまう。</li> <li>・正しいと思うことは正しいと判断することである。</li> <li>・自分勝手ではなく、みんなのこと考えて行動することである。</li> <li>・勇気を出して、正しい行動をとることである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●資料内のクラスの問題点を出させ、ルールを無視したことで不公平さや不公正さが資料内のクラスに存在することを理解させる。</li> <li>●印を付けた後、それぞれの立場（☆と△）が何人いるのか確認させ、自分勝手な席替えに納得している人が多い現状に気付かせる。</li> <li>●（△）印の生徒の気持ちはどうなのかを考えさせることで、「私」と同じように迷っていたり、言えなかったりする現状にあることに気付けるようにする。</li> <li>●自分が「私」であれば、再提案できるかを考えさせ、簡単には言えないことに気付けるようにする。</li> <li>●荒木さんの発言に着目し、全体には言えないが、同じように公平ではないと思っている生徒がクラスの中にいることに気付かせる。</li> <li>●周りの席の生徒との交流の場を設けることで、全体で交流するときには発言しやすい雰囲気をつくる。</li> <li>●全体の交流の場面では、他の生徒にも「どう思うか」、「付け加えないか」と問い掛けることで、多面的・多角的に考えられるようにする。</li> <li>●再提案へ不満を抱く生徒の発言に着目し、みんなの都合がよければいいといった考えは、ごく一部の人の都合でしかないことに気付かせ、それは公平、公正ではないことを理解させる。</li> <li>●公正、公平とは何か考えさせ、それは、自己中心的な考えではなく、周囲のことを考え、社会をよりよくするものであることに気付けるようにする。</li> </ul>
4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。 ○公正、公平って何だろう。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからは、自己中心的な考え方をなくしていきたい。</li> <li>・見て見ぬふりをするのではなく、間違っている人を注意していきたい。</li> <li>・友人関係を先行するのではなく、自らが正しいと思ったことを実践すべきだと思う。</li> </ul>	●4で考えたことを基に、自らの経験やこれまでの自分自身について振り返るように声掛けする。
5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。 ○公正、公平を実現していくために、これからあなたはどのように生活をしていきたいですか。	8分		

### (4) 評価の視点

○「私」が席替えを再提案した理由を交流したり比較・検討したりする場面で、公正、公平について、多面的・多角的な見方へと発展しているか。

○本時の振り返りの場面で、公正、公平について、自分自身との関わりの中で深めているか。